

2012/06/28

言語情報科学専攻 博士課程在籍

西尾悠子

ウーヴェ・ヨーンゾン『記念の日々』における「故郷／Heimat」について
— ニューヨーク・タイムズを例に —



ヨーンゾン文学館／メクレンブルク・フォアポンメルン州クリューツ（Klütz）にて

1. ウーヴェ・ヨーンゾンについて

1934	ポンメルン地方カミーニ（現ポーランド領カミエニ・ポモルスキ）に生まれる
1945	母と妹とともにメクレンブルク地方のギュストローに移住
1952-1954	ロストック大学に在学（ドイツ文学専攻）、1954年自主退学
1954-1956	ライプツィヒ大学に在学、習作『イングリット・バーベンダーエルデ 卒業試験 1953年』 <i>Ingrid Babendererde. Reifeprüfung 1953</i> が東西ドイツ双方の出版社から出版を拒否される
1959	『ヤーコプについての推測』 <i>Mutmassungen über Jakob</i> 、西ベルリンへ「転居」
1961	『三冊目のアヒム伝』 <i>Das dritte Buch über Achim</i>
1964	短編集『カルシュとその他の短編』 <i>Karsch, und andere Prosa</i>
1965	『ふたつの見解』 <i>Zwei Ansichten</i>

1966-1968	ニューヨーク滞在、『記念の日々 ゲジーネ・クレスパールの生活より』 <i>Jahrestage. Aus dem Leben von Gesine Cresspahl</i> 執筆開始
1970-1983	『記念の日々』第一巻～第四巻 (1970, 1971, 1973, 1983)
1974	イギリスのシェピ島・港町シェアネスに移住
1975	エッセイ集『ベルリン事情』 <i>Berliner Sachen</i>
1980	フランクフルト詩学講義『付帯状況』 <i>Begleitumstände</i> (講義の開催時期: 1979 年夏学期、全五回)
1981	マックス・フリッシュ 70 歳の誕生日を記念した短編『遭難者のスケッチ』 <i>Skizze eines Verunglückten</i>
1984	シェアネスにて死去 (享年 49 歳)
1985	『イングリット・バーベンダーエルデ 卒業試験 1953 年』(遺稿)
1996	『今日で 90 年』 <i>Heute Neunzig Jahr</i> (遺稿、未完)

2. 『記念の日々』*Jahrestage* について

- 主人公ゲジーネ・クレスパールがニューヨークで過ごす一年間(1967年8月21日～1968年8月20日、「日付のない一日」1967年8月20日)を書き記した長編四部作
- ゲジーネがアメリカ育ちの娘マリーに語るメクレンブルクの「家族史」(1931年～1961年)
- 個人、国、宗教の「記念日」の交錯

- 扱われる主なテーマ

- ナチス政権時代／ソ連軍による占領時代／東ドイツの社会主義体制 (回想)
- ドイツ全体が背負ったナチス時代の罪
- 60年代のアメリカが直面していたベトナム戦争や人種差別問題
- ユダヤ人問題
- 「プラハの春」
- 社会主義への希望

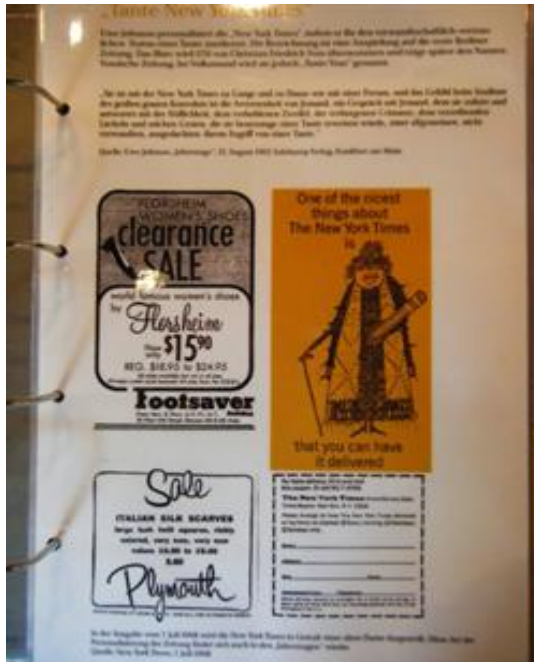
- 『記念の日々』という作品の底を流れる重要なテーマの一つ、「失われた故郷と願わしい故郷の探求」
- ドイツ語における「故郷 *Heimat*」という言葉の持つ複雑性



ゲジーネの生まれ故郷・イェーリヒョーのモデルとなったとされるクリューツ

3. ニューヨーク・タイムズに見る「故郷 Heimat」像

3.1. ゲジーネとニューヨーク・タイムズ



「ニューヨーク・タイムズおばさん」のイメージ

- 渡米して以来、7年間ニューヨーク・タイムズ（以下 NYT）を愛読
 - „[...] als sei nur mit ihr der Tag zu beweisen.“ (JT¹ 15) → NYTに示す執着
- NYTを読み続ける理由
 - イギリス起源の新聞（= The Times）であるため
 - 仕事に従事している間、逃した「ニューヨークの日常」を後から取り戻すため
- NYTを擬人化し、親しみを込めて「おばさん」と呼ぶ
 - NYTの取る立場に常に賛同できるわけではないが、基本的には「信頼に足る人物（新聞）」と見なしている

3.2. ニューヨーク・タイムズが果たす機能

- フィクションとノン・フィクションの「コラージュ」
 - 作中で取り扱われる NYTの記事は、ほぼすべて実際の紙面に基づいている
 - NYTの記事（時事ニュース、記念日への言及など）を発端とし、物語を展開
- 感情の起伏が少ない（ように見受けられる）ゲジーネの心情を映す「鏡」
 - ゲジーネ本人のコメントの有無によって推し量られる彼女の一日
 - NYTの抜粋（翻訳）のみの日付（章）：ゲジーネの疲労や体調不良を示唆
 - チェコスロバキアの「二千語宣言」：全文を翻訳、喜びを隠しきれない
- 全世界で起こりつつあることを把握するための情報源
 - 「ニューヨーク・タイムズおばさん」に寄せる信頼
- 新たな故郷／失われた故郷を（再）獲得するためのツール
 - „Eine Fremde, die sich Heimat hatte einschmeicheln wollen durch Nachlesen“ (JT 1882)
 - 新聞を読むことにより、欠落している「記憶」や「日常生活」を補完
 - 過去の回想：自分自身が持ちえない情報や欠けているイメージを補完するためのツールとして → 写真

¹ Johnson, Uwe: *Jahrestage*. Aus dem Leben von Gesine Cresspahl. 4 Bände, Frankfurt am Main 1970-1983. —以下、*Jahrestage* は JT と省略する。

→ 「故郷」とのつながりを成立させる媒体としての新聞

3.3. ニューヨーク・タイムズが可視化するもの

- ゲジエネによって恣意的に選択される記事
 - ニューヨーク市内で起こる犯罪
 - ユダヤ人問題／ユダヤ歴、ユダヤ教の年間行事
 - ベトナム戦争
 - 東西両ドイツの戦後処理、東西両ドイツをめぐる情勢
 - ソビエト連邦内の情勢
 - チェコスロバキアにおける改革運動「プラハの春」
 - 文芸欄、スポーツ欄、広告欄などへの言及はほとんど行われない

- 恣意的な要約
 - 一部抜粋（翻訳）を除き、作中で取り上げられる記事のほとんどがゲジエネによって要約されたものであり、「ゲジエネ」というフィルターを通した記事として記録される
 - ゲジエネ自身の関心、直面している問題と連動
 - 「プラハ・ミッション」の直前：飛行機事故関連 („Wir fliegen auch bald.“, JT 1708 u.a.)

- アンビバレントな「故郷 Heimat」像
 - イギリス起源の NYT —— 父、そして「故郷となり得た場所」とのつながりを求めて
 - アメリカに対する不安、不信感
 - ニューヨークに対して抱く「望郷の念 Heimweh」
 - 新聞が引き起こす Entfremdung —— ゲジエネとマリーの違い

785 West End Avenue, wo ist das, Marie?

[...] [E]s ist bei uns um die Ecke, Mrs., *madam*, Gesine.

Wußtest du, daß es an der 99. Straße war?

Mir hat es Esmeralda erzählt, die hat es von Jason, und Jason hat es gesehen. Dazu brauch ich nicht die New York Times [...]. (JT 292)

- 東西両ドイツに対する失望／「失われた故郷」メクレンブルクへの郷愁

„Nein. Kein Heimweh nach Deutschland.“ (JT 189)

„Davon ist bloß wahr, ich möcht da [Jerichow] beerdigt werden. [...] Es braucht kein eigenes Grab zu sein; Jakobs genügt mir.“ (JT 1828)

(東ドイツ政府によるメクレンブルク解体に際して) „Es ist ein Stück Herkunft
unkenntlich gemacht worden.“ (JT 1837)

- 現行の社会主義に対する絶望と、プラハの民主化運動に託す希望／不安

→ 「故郷 Heimat」という言葉の複雑さを、新聞メディアを通して体現

